

『できる日本語』に関する説明

嶋田 和子

一般社団法人 アクラス日本語教育研究所

★『できる日本語』って、どんな教科書？

プロフィシエンシー（熟達度）を重視した教科書です。CEFR や OPI などの考えをもとに、行動主義に基づいて作成されました。

また、教育現場で、長年かけて「作成した教師／「試用教科書」を使った教師／授業を受けた学習者」間での「対話」を重ねて出来上がりました。

- ・場面・状況の重視
- ・タスク先行（まずチャレンジ！）
- ・意味のあるタスク
- ・「固まりで話すこと」重視
- ・他者への配慮のある談話
- ・行動目標（Can-do-statement）の明確化
- ・文脈化の重視
- ・学習者にとって必然性のあるタスク
- ・スパイラル展開

★『できる日本語』でどんな教室をめざしたいのか？

「自分のこと／自分の考えを伝える力」「伝え合う・語り合う日本語力」を身につけることを目的に作成されました。日本語によるコミュニケーションの中でも「対話力」に重きをおき、**社会・人とつながる**ことをめざしています。以下のようなキーワードが出てきます。

- ・教室のコミュニティ化&外とつながる教室
- ・多様な対話が生まれる教室
- ・学習者の気づきを大切に！
- ・学習者の達成感を大切に！
- ・「学び方」が学べる教室
- ・教師と学習者の双方性だけではなく、多方向性を重視した教室

まず、レベルについてお伝えしておきましょう。

『できる日本語 初級』＝初級前半、初級1

『できる日本語 初中級』＝初級後半、初級2

『できる日本語 中級』＝中級

OPI（Oral Proficiency Interview）との関係は、表1のようになります。

表1 OPIとの関係および学習時間

レベル	OPI レベル (目安)	学習時間
中級	中級ー上～上級ー下	350時間
初中級	中級ー中	200時間
初級	初級ー上～中級ー下	150時間

また、大きな特徴として、まず共通テーマを考え、それをもとに初級・初中級・中級とスパイラルに展開できるようにグランドデザインをした上で、初級から作り始めました。表2は、全体像となりますが、5課を取り上げてご説明したいと思います。表3に5課の各レベルの行動目標を記しました。

表2 「各レベルのタイトル」

	共通テーマ	初級	初中級	中級
1	出会い	はじめまして	新しい一歩	新たな出会い
2	消費生活	買い物・食事	楽しいショッピング	楽しい食事・上手な買い物
3	計画	スケジュール	私の目標	時間を生かす
4	私がいるところ	私の国・町	住んでいる町で	地域を知って生活する
5	できごと	休みの日	大変な1日	緊急事態！
6	外に出る！	一緒に！	旅行に行こう	地図を広げる
7	交流	友達の家で	西川さんの家へ	世代を超えた交流
8	想い	大切な人	ありがとう	気持ちを伝える
9	趣味・余暇	好きなこと	アルバイト先で	言葉を楽しむ
10	旅	バスツアー	旅行に行って	日本を旅する
11	ライフ	私の生活	地域社会の中で	ライフスタイル
12	健康	病気・けが	私の健康法	心と体の健康
13	影響	私のおすすめ	親の気持ち・子の気持ち	トレンドに乗ってつながる
14	文化	国の習慣	イベント・行事	カルチャーショック
15	メディアと暮らし	テレビ・雑誌から	気になるニュース	情報社会に生きる
16	教育			学校生活
17	仕事			働くということ
18	環境			地球に生きる
19	科学			科学の力
20	豊かさ			豊かさと幸せ

「シラバス一覧」に関しては資料②～④をご覧ください。

資料②『できる日本語 初級』シラバス一覧

資料③『できる日本語 初中級』シラバス一覧

資料④『できる日本語 中級』シラバス一覧

表3 5課の行動目標



中級	予期しないことが起きたとき、状況を理解して適切な行動を取ることができる。また、緊急の事態が起こって経験したことについて話すことができる。
初中級	突然のハプニングにあったとき、簡単なことなら事情を説明して、対処することができる。
初級	休みの日の出来事や予定について友達や周りの人と簡単に話すことができる。

図1 スパイラル展開

表3の行動目標を見ると、初級→初中級→中級と、少しずつ学習者の外とのつながりが広がっているのがわかります。また、タスクの難易度も上がっています。これがスパイラル展開ということになります。

★中身を見てみると～～～

今回は、6課「一緒に！」を例にしてご説明したいと思います。

表4 『できる日本語 初級』6課

※ST=スモール・トピック(初級は各課3つのST、初中級は各課2つのST)

課	行動目標	ST	タイトル	できること	学習項目
初級 6課	友達を誘ったり、行きたいところやしたいことを一緒に相談したりして、約束することができる。	1	一緒に行きませんか	友達を誘うことができる。また、誘いを受けたり断ったりすることができる。	Vませんか Vましょう ～はちょっと・・・ [場所]で～があります ～が(～枚)あります
		2	どちらがいいですか	友達の意向を聞いたり情報を比べたりしながら相談することができる。	～で～がいちばんAです ～と～とどちらがAですか ～のほうがAです ～は～よりAです
		3	約束	会う場所や時間などを約束することができる。	もうVましたか(経験) まだです ～よ ～はどうですか ～ね(確認)

11 一緒に行きませんか

チャレンジ!

教室でクラスメイトを誘っています。
You are making an invitation to classmates in the classroom.
在教室邀请同学一起做事。
교실에서 반 친구에게 제안을 하고 있습니다.

友達を誘うことができる。また、誘いを受けたり断ったりすることができる。
You can make invitations to friends, and can accept or decline invitations from others.
会邀请朋友一起作某事。会接受邀请或拒绝邀请。
친구에게 제안할 수 있다. 또한, 제안을 수락하거나 거절할 수 있다.

- 1
- 2
- 3
- 4

ポイント 48、49、50、51、52

6課ST1のタイトルは「一緒に行きませんか」ですが、左側が場面・状況です。そして、右側のページ1を見ながら、まず学習者に「こんな時、何て言えばいいんだろう？」と考え、言ってもらいます。例えば、こんな会話が聞かれます。



教師：はい、ワンさんは何と言いますか。
 学習者①：ああ、ダニエルさん、ご飯を食べましたか。
 学習者②：いいえ、まだです。食べたいです。
 学習者①：どこで食べますか。レストランに行きたいです。
 学習者③：いいですね！

まだ、「一緒にご飯を食べませんか」は習っていないので、言えません。でも、言いたいことは頭の中に浮かんでいます。何とか言おうとチャレンジして、これまでに習った文型・語彙を使って学習者は次々に話し始めます。これが「タスク先行」です。その後、「じゃあ、CDを聞きましょう」と言って、聞いてみると……。



ワン：パクさん、ダニエルさん、今晚一緒にご飯を食べに行きませんか。
 ダニエル：いいですね。食べに行きましょう。

このCDの発話を聞いた後教師は、「皆さん、何と書いていましたか」と学習者に尋ねます。「食べに行きませんか」という言葉が聞き取れた学習者は、「ああ、そうか！誘いたい時には、こう言えばいいんだ！」と、自ら発見しているのです。これは、「意味のあるタスク」「学習者にとって必然性のあるタスク」だからこそ、学習者の「気づき・発見」につながると言えます。

チャレンジが終わると、【言ってみよう：別冊】に移りますが、ここでは言語的知識をしっかり磨いていきます。知識は磨かなければ身に付きません。でも、その磨き方がとても大切なのではないのでしょうか。次の【言ってみよう：本冊】では、「意味のあるタスク」「学習者にとって必然性のあるタスク」が求められます。そして、【やってみよう】は、スモールトピックの「できること」を達成するタスクです。

【チャレンジ！】 場面イラスト&コマイラストでチャレンジ！



【言ってみよう】 別冊→本冊で練習！



【やってみよう】

では、例として6課ST1の【やってみよう】を見ましょう。

「CDを聞きましょう」は、聴解練習ではありません。ロールプレイをする前に、「いろいろな言い方があったこと」を確認していくことが目的です。相手の趣味や都合を聞いてから誘う、チケットがあるから誘う、自分が行きたいから誘う……さまざまな誘いの中から、自分が考えてロールプレイをすることがねらいです。

これで、ST1は終わりです。誘ったら、どうしますか？表4を見てください。「相手の意向を聞いたり情報を比べたりしながら相談し（ST2）、そのあと「会う場所や時間などを約束する（ST3）」ことになります。これが文脈のある学びということになります。

こうして3つのSTが終わると、【話読聞書】に入り、最後に【できる!】、つまり課のゴールとなります。（課によって、【話読聞書】と【できる!】の順番が逆になることもあります）

話読聞書

「一緒に!」

皆さんは日本の食べ物で何がいちばん好きですか。私はお好み焼きがいちばん好きです。お好み焼きは日本のピザです。お好み焼きの中に豚肉や卵や野菜があります。お好み焼きのソースは少し甘いです。とてもおいしいですよ。今度、一緒にお好み焼きを食べに行きませんか。

ソース ピザ 皆さん

おすすめを教えてください

東京でおいしい店はどこですか

どんな料理ですか

【話読聞書】の「話」と「聞」の字が大きくなっていますが、これは初級・初中級では、話すこと・聞くことを重視したいからなのです。でも、同時に「読」「書」も忘れてほしくはないということで【話読聞書】としました。これは、書くためではなく、「固まりで話す」ことができることを目指したコーナーです。すぐにはこれだけのものを話せるわけではないので、右側の吹き出しのような質問に答えながら、徐々に長くしていきます。

このように毎課さまざまなテーマで、自分のこと・自分の考えを「固まりで話す」ことを学ぶことによって、頭の中にたくさんのフォルダーが出来てくることになります。それが、実際の場面で話すときに大きな力となっていきます。

次の例は、「今言ったことを、じゃあ書いてみよう」ということで出来た作品です（ミャンマーの学習者）。まずは担当したI先生の「声」をお聞きください。



この学習者は、友達と一緒にいきたいところとして、自分のアルバイト先をクラスメイトに紹介しました。アルバイトをしているラーメン屋さんのラーメンがとても好きで、ぜひクラスメイトにも、その店のラーメンを食べさせたいと思ったそうです。

『できる日本語』
L6 話読附書

年 月 日 ()

名前 チョー

わたしのいちばん好きたべもの
のはじは人のたべもので
ラーメンです。そのみせは
おちゃのみず^たにあります。
みせのなまえは「つじ^た街」です。

わたしのガ、こゝからそのえきまで20.3°くらいです。
おちゃのみず^たえきからそのみせまであるいて8.3°
くらいです。ほんとにおいしいです。みなさん、いはいたべにいま
せんか。

※作品はすべて学習者に許可を取っています。

この課のゴールとして【できる！】を実践しました。ここでも担当したI先生の「声」をお届けしたいと思います。



【できる！】では、興味のあるイベントに誘い合って、実際に体験してくるという活動をしました。まだ入学したばかりで、教室の中だけの関係だった学生達が一緒に外へ出て日本語を使って交流しました。日本語を話しながら楽しく過ごし、お店の人やイベント会場のスタッフとも日本語でのやり取りをしたそうです。教室で習ったことが実際に使えたことで自信を持ったようです。

待ち合わせをして一緒に出かけるために、学生同士、連絡先を交換しました。あるグループは無料ジャズコンサートに行ってきました。当日、グループのメンバー6名は学校の最寄り駅で待ち合わせをして、御茶ノ水でジャズコンサートを見て、そのあとにメンバーの1人がぜひ行ってみたいと思っていた秋葉原まで歩いて行きました。途中にある神田明神では記念撮影もしてきました。日本人観光客に写真を撮ってほしいと日本語でお願いしたとうれしそうに話してくれました。

この活動を通して、教室内でも国を超えての交流がより活発になりました。連絡先を知ったことで、気軽に連絡ができるようになって、今では困ったときに連絡を取り合うようになったそうです。『できる日本語』は学習者がどんどん仲良くなっていく教科書だと改めて思いました。

できる！

- 行きたいイベントを探して、友達を誘いましょう。
- 1 雑誌やインターネットでイベントを調べましょう。
(日にち、場所、料金など)
- 2 友達を誘いましょう。
- 3 友達と相談して、約束しましょう。

ゴールデンウィーク中、あちこちに友だちと出かけた学習者は、体験してきたことをそれぞれが写真を使って作文を書いてきました。実は、1つ前の5課の【話読聞書】「楽しい1日」で日記を書いていたので、学習者は「お出かけ」をしたあと、自発的に「楽しい1日」について日記を書いていたのです。やらなければいけないことだから……というのではなく、楽しみながら習い始めたばかりの日本語で日記を書いていたのです。こうしたことが「日本語で書けるって楽しい！」とモチベーションにつながります。

2017年 4月 29日(土曜日):
名前 シンカイ
「JAZZコンサート」
4月29日 土曜日ともだちといっしょにたまちのみずえきへいきました。
あそこにはJAZZコンサートがありました。JAZZコンサートはとてもエキサイティングでした。そしてみんなとても楽しかったです。JAZZコンサートはすごかったです。わたしたちはうれしかったです。きょうはほんとうにたまちのみずえきへいきました。

I先生は、6課【できる！】の作品のまとめをしてクラスで共有したいと思いましたが、今回は、「すぐにやるのではなく、他の課を勉強しながら、いずれ作品にして発信しよう」と考えました。実際にポスターにしてクラスで共有したのは「13課：私のおすすめ」(2017.6.1)を学んでいるときでした。『できる日本語』は、このように課・レベルを超えて「つながりのある学習」をめざしています。



さらに、この話を聞いた教務の先生方が「ぜひ学校のホームページに載せましょう！」と、ポスター完成の翌日HPにアップされました。また、担当した先生方と私との話し合いの中で、「学校のHPでは、ほとんど説明文が載せられないので、もっと広く実践を共有できるように、アクラスのホームページに載せて発信しましょう」ということになり、さっそく実行に移しました（「初級クラスでの“つながり”のある自律的な学び～『できる日本語 初級』6課の実践から」<http://www.acras.jp/?p=6830>）これは、学習者の言語活動を通して教師同士がさまざまな対話を重ねていることの表れです。こうした「多様なつながり」が自然に生まれてくるのが『できる日本語』の特徴です。

「日本語を初級1課から一緒に始めたばかりの学習者が、クラスの中で対話を楽しみ、習い覚えた日本語をもとに誘い合ってイベントに出かける」姿は、とても印象的です。教室は、ただ文型・語彙を覚えたり、ある場面を設定してそこでロールプレイをしたりするためにはありません。「伝え合い、つながり、新たなものを創り出す」ために学んでいるのです。学習者は始めたばかりのころは、自分を軸にした友だち・クラス・周りの人々とのつながりで終わりがちですが、やがて住んでいる町・地域社会へと関心・行動は広がりっていきます。さらには、社会全体に目が向き、教室においても、コミュニティにおいても「多様なつながり」を重視した生活へと変わっていきます。

たくさんの実践例がありますが、ここでは『できる日本語 中級』の7課「世代を超え

て」についてご紹介したいと思います。アクラス日本語教育研究所のホームページに以下の事例紹介が載っていますので、どうぞご覧ください。

○『できる日本語 中級』「世代を超えて」の実践例(2014. 12. 8)

<http://www.acras.jp/?p=3552>

○留学生、近所のお宅を訪問して～

『できる日本語 中級』「世代を超えて」実践第二弾(2014. 12. 19)

<http://www.acras.jp/?p=3612>

○「日本の料理を留学生に食べさせたい！」と、

地元の方々が年末パーティーに参加(2014. 12. 20)

<http://www.acras.jp/?p=3631>

では、「トビラ」(教科書の構成としては「課の最初のページ」です)をご紹介して終わりにしたいと思います。「トビラ」には【話してみよう】があり、3枚のイラストと1枚の写真があります。【話してみよう】には次のような2つの役割があります。

1. これまでに習ったこと・知っていることを使って、どんどん話してみる
2. この課で学ぶことのイメージ化を図る

【話してみよう】の次は【聞いてみよう】です。これは課が終わってから確認のために聞くのではなく、その課の勉強を始める前に、「この課ではどんなことを学ぶのだろうか?」と思いながらCDを聞きます。

知っている言葉を手掛かりにして、「何を言っているのだろうか?」と聞くことによって、ヒアリング力が身に付きます。さらに、課の勉強が終わったところで、最後にもう一度同じCDを聞くことによって、「始める時にはあまりよく分からなかったけれど、もうよく分かる!」と思えることで、達成感が高まります。これも著者陣が知恵を出し合って生まれた『できる日本語』の仕かけの一つです。



★時間があったら読んでいただきたい論文

- ◆嶋田和子(2008)「なぜ今プロフィシェンシーを考えるのか—教育現場の視点から」鎌田修・嶋田和子・迫田久美子編重『プロフィシェンシーを育てる—真の日本語能力をめざして』凡人社、pp. 2-17

♪♪ もっと『できる日本語』について詳しく知りたい方へ ♪♪

- ◆『『できる日本語』のためのアドバイス帳（1）～初級&初中級』
<http://www.acras.jp/wp-content/uploads/2016/08/b2687f2b586a20afd1ca4a229ad1dc2b.pdf>

★参考になるサイト

- ◆アクラス日本語教育研究所
<http://www.acras.jp/>
「できる日本語」特設ページがあります。
- ◆『できる日本語』アルク特設ページ
<http://www.alc.co.jp/jpn/dekirunihongo/>
教科書の特徴、採用校の声、学習者の声など、いろいろな情報が載っています。
- ◆アルク ダウンロードセンター
<http://www.alc.co.jp/dl/>
「できる日本語」の英語、中国語、韓国語、ベトナム語の翻訳（Can-do-statement とことばページ）がダウンロードできます。
- ◆「教科書について考えてみませんか？」（『月刊日本語』連載記事）
<http://www.nihongohiroba.com/?p=2254>

- 第1回（2011年4月号） 教科書を考えるって、面白い！
- 第2回（2011年5月号） どんな教科書と付き合っていますか？
- 第3回（2011年6月号） タスク先行型授業にチャレンジ！
- 第4回（2011年7月号） 「わかる」から「できる」へ
- 第5回（2011年8月号） 漢字学習も「できること」重視！
- 第6回（2011年9月号） 「プロフィシェンシー」で、教師力アップ！1

- 第7回（2011年10月号）「プロフィシェンシー」で、教師力アップ！2
- 第8回（2011年11月号）21世紀の日本語教育は“対話”重視1
- 第9回（2011年12月号）21世紀の日本語教育は“対話”重視2
- 第10回（2011年1月号）学習者の自律的な学びを考える
- 第11回（2011年2月号）「学習者が話したくなる教科書」とは
- 第12回（2011年3月号）「対話で新たな教師人生を！」

★「できる日本語」シリーズ

考え方は、本冊、漢字、読み、文法、語彙・・・すべて共通です。

- ◆『できる日本語 初級』
- ◆『できる日本語 初中級』
- ◆『できる日本語 中級』

- ◆『できる日本語 わたしの文法ノート 初級』
- ◆『できる日本語 わたしの文法ノート 初中級』

- ◆『できる日本語 わたしのことばノート 初級』
- ◆『できる日本語 わたしのことばノート 初中級』

- ◆『漢字たまご 初級』
- ◆『漢字たまご 初中級』

- ◆『できる日本語 教え方ガイド&イラストデータCD・ROM 初級』
- ◆『できる日本語 教え方ガイド&イラストデータCD・ROM 初中級』

- ◆『たのしい読みもの55 初級&初中級』



私たちは、学習者も教師も
＜わくわくする授業＞
をめざして、長い年月をかけて
『できる日本語』を作りました。
これからも大勢の先生方と「対話」
を続けていきたいと思っています。